

Title	編集後記
Sub Title	
Author	佐原, 六郎(Sahara, Rokuro)
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	1962
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要 : 社会学心理学教育学 (Studies in sociology, psychology and education). No.1 (1962. ) ,p.138-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000001-0138">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000001-0138</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 編 集 後 記

慶応義塾大学に新制大学院の社会学研究科が文学、経済学、法学などの各研究科と共に新設されたのは1951年4月のことである。その後2年を経て修士課程の上に博士課程が、更に1961年4月からは既存の社会学及び心理学の各専攻部門のほかに教育学専攻部門が開設されて社会学研究科は大学院として益々充実するに至った。慶大の大学院では、社会学心理学及び教育学の3専攻部門を文学研究科の哲学専攻部門に所属させず、社会学研究科のうちに包容している。ただしこれを社会学研究科と名づけず、たとえば人間関係学、社会関係学、行動科学などの何れかの学名を冠した研究科にした方がよいのではないかとの意見もある。けれども以上の3専攻部門を過不足なく包括しうる適当な日本語学名を求めることは仲々困難なので、少くとも現在は新設当初の名称をそのまま踏襲して社会学研究科と呼んでいる。なお慶応大学院内の他の諸研究科とはちがって、当研究科はある特定の1学部を母体として、その上に設置されているのではない。それ故当研究科の委員会は文、経、法などの諸学部に分属する教授によって構成されて居り、学生もまたそれら諸学部の卒業生である。このように特定の1学部と直結していないこと、兼任及び兼任の教授、助教授、講師はもちろん、研究科委員たる教授でさえも幾つかの異った学部にも所属しているというのが社会学研究科の特徴となっている。

さて当研究科では新設当時以来常に研究発表及び学事報告の機関としての紀要発行を念願していたが、いろいろな事情のためその実現を見るに至らなかった。それは各学部にも所属する当研究科の

授業担当者がそれぞれ哲学、史学、三田学会雑誌、法学研究など、慶大諸学部の研究発表機関を利用できるし、また当研究科の歴史が短かく、主要な購読者となるべき学生及び修士の数が未だ極めて少ないことなどにもよる。けれども創設後10年を経過した今日ではもはや年々少数ながら増加していく新進の学徒に研究発表の機会を与え、また当研究科の学事を報告するための紀要発刊をこれ以上遷延させることを許さなくなった。そこでいろいろな困難を克服し、塾当局の援助を得て紀要出版を企図し、編集委員を依頼して準備を進めてきた。編集委員会ではまず第1号を当研究科を中心とし、他の研究科、学部などに所属する有志諸君の協力を得て数年来続行している諏訪市南真志野の農村調査についての特集号に当て、また心理学に関する論文数篇をもこれに加えて掲載することに決定した。幸にして諸種の準備も順調に進み、ここに創刊第1号を上梓することができるようになったが、この際塾当局及び極めて多忙の中で本号のために執筆して下さいました諸君に対し、編集者として厚く御礼を申し上げる。

本号にはまたフランスの社会学者バランディエ博士が1961年10月28日に慶大文学部及び日本民族学協会共同主催のもとに三田演説館で行われた講演要旨を載せることにした。その許可を与えられたバランディエ博士に深謝すると共に、この講演会の開催及び本紀要への論文掲載に種々尽力された当研究科委員松本信広教授、また講演当日の通訳と原稿の和訳とを担当して下さいました文学部専任講師松原秀一君に対し心からなる礼意を表する。

(佐原六郎記)

### 第1号 編集委員

横山松三郎 佐原 六郎 米山 桂三  
十時 巖周 大日向達子 山 岸 健  
佐藤 方哉

慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要 第1号 1962

昭和37年6月20日印刷 昭和37年6月27日発行 一部頒価 400円

編集兼発行人 佐 原 六 郎

編集所発行所

東京都港区芝三丁目2番地

慶応義塾大学大学院社会学研究科

印刷所

東京都千代田区神田美土代町16番地

株式会社三秀舎

Tel. (231) 1882~4